

地区広報

すいざわ

8年/10

No.34号

東町 小6年 清水 佑香

趣味をいかす

高齢化がすすむなか、仕事だけでなく、スポーツや趣味に意欲的にとりくみ、経験をいかして活躍している人々がいます。

自分の「趣味」としての楽しみを地域のために役立てている人もいます。

「生きがい」は、自分の元気のみなもと!!



「趣味は人生に活力を与える」
この言葉どおり実践している
辻信義さんの作品です。

水沢地区の人口 総数……3,694 男……1,795 女……1,899 世帯数……1018 (8.10.1現在)

発行 四日市市水沢地区市民センター

編集 水沢地区社協広報部

平成8年10月25日

クロスワードパズル

★問題 太枠の A～K の文字を順に並べて、ある言葉を作ってください。

よこのかぎ
①ルールを守って出しましょう。
⑤池のなか、悠ゆうと
⑦きのこの一種
⑧神奈川県の市
⑨○○○教授、○○○市民
⑩敬称
⑫新春行事、宮中で
⑭顔に傷を付けないで
⑯以後の反対
⑰佐藤さん○○○○と登場
㉚切り倒す

⑯乱さないように
⑯おじぎ
⑮公害
⑯笑顔でかわそづ
⑯民衆
⑯昔の旅
⑯冷やしていく和菓子。
⑯聞いて
⑯選挙で誰をえらぶがれを
⑯綺麗な花を一生に一度は見たい
⑯たてのかぎ
⑯先着何名様○進呈
⑯社会問題になつております
⑯開基：所有の決まらない

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K



第33回四日市市消防団消防操法競技大会出場

今年も早朝より操法訓練に励んだ四日市市消防水沢分団の皆さん。ご苦労さまでした。

8月18日に浜園グランドにて、実践に即した消防操法大会が開催され、日頃の練習成果を十二分に発揮しました。

郷土こぼれ話

伝説の里
“本郷”と光明寺

水沢郷土史研究会代表 清水 武

輝いていますこの人

児童館でお手伝い 三本松町 清水早菜恵さん

約5年前、北部児童館（富州原）で友人と始めたのが最初です。

子どもの家（諏訪公園内）塩浜児童館（塩浜）と現在3カ所の児童館でボランティア活動をしています。

担当時間帯が午前中なので入園前の親子が多く、手遊び、工作、絵本の読み聞かせ、映画や人形劇等々、多くの行事を計画し、楽しい交流をと心がけています。

現在、週に4日保育園で、保母さんとして働く一方で、家庭では3人の男の子のやさしいお母さんでもあり、金曜日には児童館の行事と忙しい毎日です。

「子供たちのあふれる笑顔で、私も元気になれて、お母さんたちも子供たちもそうなってくれれば……地元や近くの町に児童館がないのが少し残念です」と語ってくれました。



活躍中の清水さん（左端）

三本松町 清水こうさん

当地に住んだ
鎌田兵衛政家

平安末期、平治元年（一一五九）の平治の乱で源義朝は平清盛に敗れ近江へ逃げたがその源義朝の家来であつた鎌田衛政家が当地に住みついたと伝えられている。源義朝は近江の国から東国へ逃げる途中尾張で殺されたが家来であった政家は水沢峠を越えて少し下った本郷に安住の地を見つけた。その昔、山之坊村本郷は内部川をさかのぼること二〇km、入道ヶ岳と冠山に遮られようとする北側のなだらかな南斜面で、政家はそこに住み家を構え以来山仕事に精を出し、畑を耕して暮らしてきたのである。

以下次号

すいざわ夜話
流感「お染め、久松」

わしが、今でいう小学校6

年生位の秋時分にな、熱病のはやり病があつてな。

この病はな、急に高熱がでてな、「御馳走」もないし医者が来るまで床に入つて寝るとしかねないし、起きておれやんわな。

そんな病をあのころ「お染め、久松」と言うとつたし、あちこち家の表札の横に白衣の呪護符はつて病よけた家もあつだ。

七〇年の余も前やでな、人力車で近こても山本や小岐須、菰野や桜から医者迎えて帰ってきたら手遅れやつた家もあつた。

ひとがおおてな、今、考える力がいる。今のわしらはありがたいわな。

消火器の使い方を知っていますか？

防災訓練の時は、上手に火を消せました。しかし、大きな火を前にしてあわてず手順良く使えるでしょうか。

「始めチョロチョロ内なバッパ、赤子泣いてもふたとるな」こんな諺を思い出しながら今までごはんの炊き出しに苦心しました。うまく炊けたでしょうか。



不時の災難でけがをしました。頭の包帯や三角布で応急処置をする訓練です。

うまくできましたか？



上手に水ができるでしょうか。地区自警団の人たちが消防ポンプでの放水訓練をしました。近くの消火栓、防火水槽の場所は知っていますか。一度確かめておきましょう。

かまどでごはんが炊けますか

防災の日、9月1日は、水沢地区の各町で避難訓練、初期消火訓練、放水訓練、応急救護訓練、炊き出し訓練などが行われました。

昨年の阪神大震災では、二十数時間なすすべもなく、延焼していく街を映すテレビを眺め、非常の事態に私達はいったいどこまで対処できるのか、考え込んだものです。

あたり前のように、日常使用しているライフライン。

これにひとたび緊急事態がおきた時、私達は、果たしてどこまで立ち向かう事ができるでしょうか。

毎年くる防災の日を単なる行事として捉えず、生命、生活の基盤に関する大切な一日としたいものです。



